■作品について

伝 ペーター・B.W.ハイネ [(attribute to) Peter B. W. HEINE、1827 – 1885]

《ペルリ提督横浜上陸の図》

1854 年以降 油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm 横浜美術館蔵

描かれたその日その時------

東インド艦隊を率いて日本に開国の交渉にきたペリー提督一行が、横浜に上陸し応接所に向かう場面です。1854年3月8日(嘉永7年2月10日)、12時頃のことです。

湾の沖合に横一列に並ぶのはアメリカの8艘の黒船です。一行はすでに短艇(カッター)を降り、ペリーを先頭に整列して歩みを進めています。アメリカの楽隊によって「ヘイルコロンビア」という行進曲が演奏されたそうです。

一方の日本の人々はどんな様子でしょうか。その時の日本は江戸時代、鎖国をしていました。着物姿で警固する藩の旗や纏(まとい)が立っています。沖合に見える1艘の船はペリーと交渉する役目の日本人を運んできた江戸幕府の木造船。画面左の応接所は急ぎ移築されたものです。画面右に大きなたまくす(玉楠)の木、その木の下には鳥居と水神社があります。警固する日本人を中心に描かれていますが、この歴史的場面を見物にきているのか、背後には大勢の日本の人々が描かれています。

画家と絵について-----

細部まで綿密に描かれたこの油彩画の作者は、ペリー艦隊に随行して来日したペーター・B.W.ハイネという画家かもしれないとされています。ハイネは実際にみた日本の風景や人々を描き、後にまとめられた『ペリー艦隊日本遠征記』という本の挿絵に多数用いられています。

(横浜美術館)

